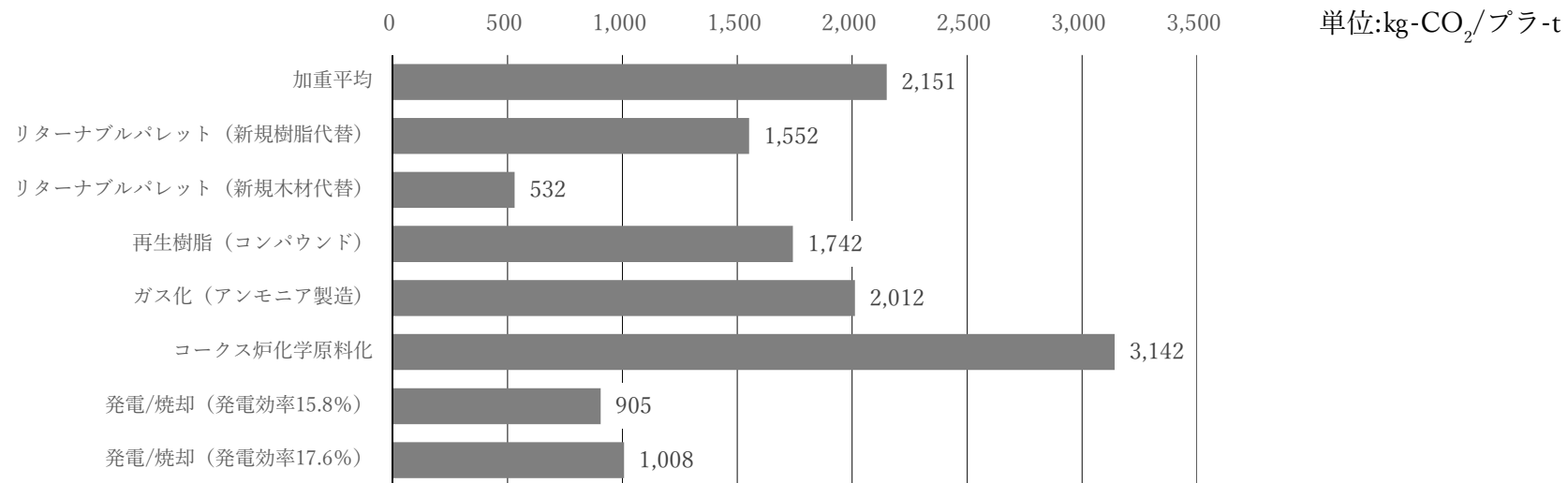


手法別の二酸化炭素削減量

手法別の二酸化炭素削減量を比較した場合、コークス炉化学原料化が最も高く、リターナブルパレット（新規木材代替）が最も低い。



<参考> 世田谷区の二酸化炭素排出量に占める割合

『オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」2018年度 温室効果ガス排出量（推計）算定結果について』による世田谷区の二酸化炭素排出量は、全体で263.7万t/年、一般廃棄物部門で11.1万t/年である。

	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂ /年)	割合
産業部門	77,000	2.9%
民生家庭部門	1,281,000	48.6%
民生業務部門	725,000	27.5%
運輸部門	443,000	16.8%
一般廃棄物部門	111,000	4.2%
合計	2,637,000	100.0%